賀正

令和5年 新春を迎えて

町民の皆様、明けましておめでとうございます。

令和5年の年頭にあたり、鹿部町の更なる発展と町民皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

さて、冬季オリンピックで幕を開け、北海道日本ハムファイターズ伊藤大海投手の2シーズン連続10勝とサッカー日本代表の大活躍で幕を閉じた1年間を振り返ってみますと、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、安倍元首相銃撃事件やエリザベス女王崩御などまさに激動の年でした。また、未だ収束していない新型コロナウイルス感染症について、ワクチンや新薬の開発が進むなど明るい希望も見えてきた年でもありました。

そのような中、現在、本町では行政運営の総合的な指針となる次期鹿部町総合計画を策定しております。現行の計画策定時の人口推計は、2022年で4，226人と算出されていましたが、実際には3，666人と減少しました。また、現在、大岩、鹿部、出来澗地区に住む20代の漁協組合員は一人もおらず、町全体で毎年生まれてくる子供も15人を超えない状況となっています。

私たちは、この事実を直視しなければなりません。

一方で、昨年、来場者200万人を達成しました道の駅しかべ間歌泉公園は、都市と地方の交流拠点として、年間約30万人もの方々が訪れる施設となり、また、水産物や加工品の返礼品を中心としたふるさと納税による寄附額も7億5千万円を超えるまでになりました。

ただ、残念なことに、その来場者が道の駅以外の商店などでお食事やお買い物をするケースはごくわずかとなっております。

私たちがとるべき対策は、いかに、道の駅に来てくださっているファンの皆様に道の駅以外の商店などで楽しんでいただくか、また、いかに、ご寄附いただいたファンの皆様に実際に鹿部に遊びに来てもらうかであり、最終的には鹿部に住んでもらうことを目標に、子育てや高齢者福祉、医療体制、住環境、働く場所などの充実・支援をするための施策が必要です。

道の駅来場者200万人達成